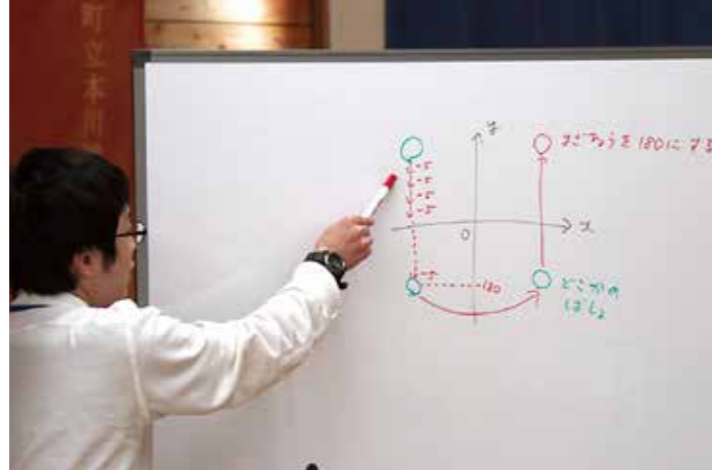


化もそも プログラミング教育って何をするの？ 必修化ってどういうこと？

2020年からの必修化に向けて 静岡大学と連携した プログラミングの体験模擬授業が行われました

●**プログラミング教育とは**
プログラミング教育と聞くと、子どもたちが算数や国語のようにパソコンの基本技術を学習する、新たな教科が新設されるというイメージをお持ちの方がいると思いますが、そうではありません。「プログラム」を「教材」として、「問題に対して物事を順序だてて考え、解決策を導き出す」能力を身につけることを目的とした学習がプログラミング教育です。



●**なぜ必修化されるのか**
今の子どもたちは、より情報化が進み、AIをはじめとした新しい技術が活用される社会を生きていくことになりました。生活には欠かせない「電気、ガス、水道」や「インターネット」などは、すべてプログラムで動いています。それらを知識として身につけることで、日常生活で起る問題の解決に必要な手順に気づき、自ら判断して解決するための「論理的思考力」を養うことが必修化の目的なのです。

11月25日（月）、中川根第一小学校と本川根小学校において静岡大学情報学部学生4人を講師に招きプログラミング教育の体験授業が実施されました。
今回は「スクラッチ」と呼ばれるプログラミング言語を使い、画面上に表示されたキャラクターを動かすための指示の出し方（プログラム）を習ったほか、指示を組み合わせたゲーム作りにも挑戦しました。



参加した児童からは「初めてプログラミングをやってみただけど、とても難しかった」、「慣れていなくて難しかったけど、できることが増えていくのがおもしろかった」といった声が聞かれ、多くの子どもたちが興味深く授業に取り組んでいる姿が見られました。



●**必修化へ向けて**
来年度から、先生たちは算数や国語などの既存の教科の中にプログラミング教育を取り入れて授業を進めていかなければなりません。何年生のどの授業で、何時間、どのような内容にするかは、学校の創意工夫に委ねられています。指導を受ける子どもたちは、生まれたときから情報機器に接しているため、道具の扱い方についてはすぐに理解できます。しかしな

がら「なぜそれが動くのか」ということはあまりに気にしていません。プログラミング教育は、物事の「結果に対して理由を理解する力」を育てていくためのものです。現在、川根本町では技術よりも「考える力」を身に付けさせることを目標に、必修化に向けた準備や指導方法の勉強会などを進めています。

11月29日（金）には中川根南部小学校においてテレビ会議システムを活用し、浜松にある静岡大学情報学部の研究室から画面を通して説明を行う、遠隔でのプログラミング授業も行われました。
電子黒板に映し出された画面を通して、個別の質問にはタブレットを活用するという形式の授業では、画面の向こうからの指示に合わせて先生がパソコンを操作して児童に教えるといった姿が見られました。

今回は、2020年度から小学校で必修化されるプログラミング授業とはどのようなものか、どういったことを学習するものなのかについてご紹介します。
今回は、2020年度から小学校で必修化されるプログラミング授業とはどのようなものか、どういったことを学習するものなのかについてご紹介します。

